

ご 案 内

《 「精神分析治療psycho-therapy」をお求めの一般の方々のために 》

- 「精神分析」とは、自らを挫かせ躓かせるもの、或いは自らを活かしささえるものを自らの心のうちに聞き取ろうとする営みです。具体的には、被分析者が心に思い浮かぶままに日常的な事柄や夢の記憶などを自由に語ってゆき、分析者はそれらに「こころの言葉」を読み取りつつ応答いたします。そうした‘対話’のセッションをとおして、被分析者にとって「自分とは何か」の洞察が徐々に得られ、さらにはそれぞれ本来の‘自己生成過程’の展開（‘個性’の充溢）が探求されることになりましょう。
- 被分析者の適性については、必ずしも定まった基準があるわけではありません。しかしながら、誰も「自らを語る」ことを無理強いされることはできませんので、対話に向けて主体的に臨む姿勢が問われましょう。
（尚、分析セッションは寝椅子を利用しての背面方式となります。）
- 当クリニックは、季節ごと年に5回（1～2週間、総計7週間）のお休みが予定されています。セッションは、それらを除いて毎週継続され（祭日でも）、契約に応じて、予約された同じ曜日の同じ時刻にお越しになることが義務づけられます。
§ キャンセルなされた場合でも、料金は課されます。
- セッションの回数および期間：基本的には週一回のセッションです。毎週確実にお越しになれる状況が確保できますかどうか、現実的にご検討いただきます。分析期間につきましては、分析経過のなかで、被分析者各々の判断に適宜任せられております。
（尚、キャンセルが頻繁に続く場合は、契約は解消されます。）
- 毎月の分析料金の支払いが被分析者本人の負担の場合でも、経済的基盤を共有するご家族がおいでの場合は、予め賛同なり協力を取り付けておかれることをお勧め致します。尚、お支払いが親御さんの援助に依ります場合には、『保護者面談』が予定されることとなります。
- 契約に当たり、被分析者の緊急時（不慮の事故等の際）、代理として当方へ確実にご連絡くださる方をどなたかご一名、「保証人」として承りますのでご注意ください。
- 契約の際の心得：「精神分析」の体験を昨今‘自分への投資’と考える向きが一般的ではありますが、満足的な終結を迎えるには、自らを主体的存在として自覚し、自分の在り方を自分で選びとろうとする実存的情熱が究極には問われることになりましょう。

（尚、『診断面接』の規定料金は、一回につき¥20,000円です。）

§「山上千鶴子(やまがみちずこ)」プロフィール §

<経歴>

■1971.3. 京都大学大学院教育学部修士課程臨床心理コース修了

■1973.10. 渡英後の翌年、The Tavistock Clinic(タヴィストック・クリニック)、Training Course of Psycho-analytical Psychotherapy with Children, Parents & Young People (The Tavistock Centre, London)に、日本人として初めて a full-time traineeとして入学を許可される。

(このトレーニング機関は、故メラニー・クラインに直接指導を受けた、或いはその流れを汲むところの分析家グループが指導陣を占めており、歴史的に「クライン精神分析学派」発展の揺籃的役割を為して来た。)

6年間の在籍中、故Dr.D.Meltzer(メルツァー)率いる英国でも最もラディカルと見做される分析家グループに帰属し、 特には故Miss.D.Weddellとの5年に亙る教育分析(週5回セッション)をも含めて、それぞれの諸氏より親しく薫陶を受け、『精神分析的療法家』としての規律を培う。

■1979.9. The Tavistock Centreにおけるトレーニング・コース全課程を修了。
British Association of Child Psychotherapists の正会員に認定。

4年余の St.George's Hospital(児童精神科外来)勤務を退職。

■1980.2. 帰国後、東京・原宿で個人開業をスタート。Dr.W.R.Bion(ビオン)の思想的遺産を継承することを念願とし、専ら青年・中年層を対象とした臨床活動の傍ら、後進の育成指導に当たり、現在に至る。

<所属団体>:

・『日本精神分析学会』・『日本心理臨床学会』

<参考図書>:

・木村治美著 「こころの時代に—私の精神分析入門」(文春文庫)1986